

キンドリル財団 年次インパクト・サマリー

2024年4月～2025年3月 活動報告



はじめに

テクノロジーが急速に進化する時代。キンドリル財団は、誰もがデジタル社会で活躍できる未来を目指し、機会の格差を埋める活動に取り組む非営利団体を支援しています。本レポートでは、財団の助成初年度の歩みと、「信頼に基づくフィランソロピー(Trust-based Philanthropy)」によって生まれた成果を紹介します。

昨年、キンドリル財団は7か国・11団体との連携を通じて、50万時間以上の学習機会を提供。4万9千人以上が教育やスキリングの恩恵を受けました。特に、サイバーセキュリティ分野での支援に力を入れています。

このうち4団体については、協働を継続しており、それぞれの変化のストーリーは本レポートに掲載されています。こうした非営利団体と私たちのパートナーシップによる広範囲な取り組みは、デジタルリテラシーや職業スキルの格差を埋め、特に、支援が届きにくい層へのインパクトを広げていきます。

私たちのグローバル調査「Kyndryl Readiness Report (2024版・2025年版)」では、70%の組織がサイバーセキュリティへの備えに不安を感じ、71%がAI時代に向けた人材育成に課題を抱えていることが明らかになりました。

一人ひとりが「見守られ、支えられ、学ぶ力を持っている」と感じられるとき、テクノロジーはレジリエンスと可能性を広げるツールになります。本レポートが、皆さまの思考や行動のきっかけとなることを願っています。人生を変える力は、無限です。私たちの取り組みは、まだ始まったばかりですが、私たちはこれからも更なるインパクトを目指して取り組みを続けていきます。



Una Pulizzi

キンドリル財団代表理事
キンドリル コーポレートアフェアーズ グローバル責任者

11

支援した非営利団体数

7 カ国

対象国数

560以上

就職に結びついた人数

49,000以上

サイバーセキュリティ教育・啓発を通じてリーチした人数

528,000以上

学習・トレーニング時間

CodePath (米国) は高等教育における格差の是正に取り組んでいます。業界認定のカリキュラムとキャリア支援を通じて、機会に恵まれない学生のスキル習得を支援しています。

課題	取り組み内容
個別最適化された教育の不足	機会に恵まれない学生のニーズに合わせたカリキュラムの改訂
ジェンダー多様性の欠如	性別を問わない就職支援の強化



CodePathでの、Workdayと協業したプレ・インターンシッププログラムの参加者。

Kindred Foundation Project Impact

- ✓ **2,160** 人がサイバーセキュリティ分野でトレーニングを受講
- ✓ **116,640** 時間の学習機会を獲得

girlsecurity.

Girl Security (米国) は、14〜26歳の若者に向けたサイバーセキュリティ分野のキャリア支援を行っています。

課題	取り組み内容
構造的なジェンダーに基づく差別や暴力	全国規模のトレーニングクリニックへの財政的支援
社会的孤立	・ ネットワーキング機会の提供とキャリア機会へのアクセス向上 ・ プログラム参加者の世代を超えた対話の促進



Girl Securityのフェローと協力し、喫緊のサイバーセキュリティ課題の解決策を設計するKindredのボランティア社員。

Kindred Foundation Project Impact

- ✓ **1,082** 人がサイバーセキュリティ研修を受講
- ✓ **291,030** 時間の学習機会を獲得
- ✓ **450** 人が研修受講後に就職
- ✓ **1,000** 人以上が研修受講後に自らが所属する地域コミュニティにて知識を還元し、**6,000** 人のサイバーセキュリティ意識向上に貢献

Czechitas (チェコ共和国) は、IT分野における女性の参画促進、次世代のデジタルスキル育成を目的とした教育プログラムを全国展開しています。

課題	取り組み内容
ジェンダー格差	・ ジョブフェア開催 ・ 模擬面接実施 ・ キャリアコーチング提供
スキルギャップ	・ 講義とメンタリング提供 ・ 研修実施 ・ 啓発活動と教育



2024年6月、Czechitasデジタルアカデミーのサイバーセキュリティ卒業生がハッカソンの成果を発表し、修了証を授与されました。左から順に、マルタはCzechitasとサイバーセキュリティコミュニティの両方で積極的に活動中。ラドカはかつてサイバー攻撃の被害を受けた経験を持ち、現在はアナリストとして活躍。ペトラはジュニアセキュリティアナリストとしての職を得ています。

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ **1,594**人の女性がサイバーセキュリティ研修を受講
- ✓ **344**時間の学習機会を獲得
- ✓ **26,773**時間の学習機会を獲得
- ✓ **1,527**人がプログラムを卒業、うち**23**人がDigital Academyの資格を、**56**人が情報セキュリティスペシャリストの認定資格を取得
- ✓ **50%**の卒業生が就職
- ✓ **28,553**人に、サイバーセキュリティに関するキャリアの適正テストを含む教育・啓発キャンペーンを実施
- ✓ **6**社の国内企業、**8**社のグローバル企業と連携し、認知度を向上

digivia

Digivia (チェコ共和国) は、テクノロジーを社会課題の解決に活用し、よりよい世界を創る活動を行っています。

課題	取り組み内容
リソース不足	ツールとテンプレートを含む包括的なキットの準備
サイバーセキュリティ方針の未整備	実践的なサイバーセキュリティ管理ツールの整備

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ **275**人がサイバーセキュリティ研修を受講
- ✓ **2,011**時間の学習機会の獲得
- ✓ **1,649**人がサイバーセキュリティキットを活用



Kyndryl Collaborative (チェコ) のバイスプレジデント、マリア・ファルキエヴィチ＝ガンカルツ氏と、Digiviaの事務局長ラドカ・ピストリツカ氏が、Digivia 2024サイバーセキュリティサミットに登壇。

NPpower (米国) は、困難を抱える若年層や退役軍人へのデジタルキャリア支援を通じ、彼らの経済的自立と社会的包摂を目指して活動しています。

課題	取り組み内容
IT分野での低い就職率	- ネットワーキング・採用イベントの開催 - 短期契約による安定支援
キャリアの停滞	業界認定の研修受講と資格取得



2024年春のTech Fundamentalsコホート130名以上の卒業祝賀イベント。

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ **120人**が高度なサイバーセキュリティ研修を受講
- ✓ **43,200時間**の学習機会を獲得
- ✓ **70人**が研修受講後に就職

sodateage

認定NPO法人育て上げネット (日本) は、多様な就労支援プログラム、啓発活動、キャリアガイダンス、家族支援などを通じて、若者の経済的・社会的自立を支援しています。

課題	取り組み内容
社会的孤立による就労機会の欠如	- サイバーセキュリティに関する入門・基礎・応用の研修の実施 - 社会人・企業との交流機会の提供 - メンタリングとガイダンスの提供



育て上げネットのサイバーセキュリティ研修にて、参加者がキンドリルのファシリテーターとともにサイバー攻撃のシナリオを検討。

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ **188人**が研修を受講
- ✓ **4,407時間**の学習機会を獲得
- ✓ **12人**が研修受講後に就職

Data Security Council of India (インド) は、データ保護を専門とする業界団体であり、サイバーセキュリティとプライバシーの分野でベストプラクティス、標準、各種取り組みを通じて、安全で信頼できるサイバースペースの構築に尽力しています。

課題	取り組み内容
テクノロジーへのアクセス、教育、機会におけるジェンダースペース格差	- 地方の女性向けのサイバーセキュリティ研修／ライフスキルと就業準備支援を通じたキャリア育成プログラムの提供 - サイバーセキュリティリーダーやプログラム卒業生の先輩によるメンタリング



Cyber Vaahini の第1期生。サイバーセキュリティという成長分野において、若い女性が専門的な研修を通じて力をつけ、新たなキャリアの機会を得ることを目的としたプログラム。

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ 100人の女性が研修を受講
- ✓ 48,000時間の学習機会を獲得
- ✓ 15人が研修受講後に就職

Avsi Polska (ポーランド) は、人材育成を通じて、経済的・社会的な状況の改善を目指しています。

課題	取り組み内容
スキル不足やミスマッチによる失業	個人のスキルと地域ニーズとのバランスを重視したプログラム設計
イノベーションや起業に関わる人材や支援の欠如	官民連携によるプログラム構築、支援体制の構築



2025年3月、ポーランド・ワルシャワにて「サイバーセキュリティとAI戦略の役割」に関するパネルディスカッションを開催。技術・政策・学術分野の国際的な専門家が集い、AI導入に伴う倫理的・実務的課題について議論が交わされました。

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ 475人がサイバーセキュリティ研修を受講
- ✓ 1,750時間の学習機会を獲得

Alba Regia Műszaki Felsőoktatásért Alapítvány (ハンガリー)は、教育・文化・技術的スキル育成を通じ、テクノロジー、サイバーセキュリティ領域を学ぶ学生の支援を行っています。

課題	取り組み内容
デジタル変革へのサイバーセキュリティの統合の遅れ／	意識調査に基づいた、小中学校生むけの教材を開発
教育課程におけるサイバーセキュリティに関する専門性の不足	双方向の、ゲーミフィケーションを活用したソフトスキルおよびサイバーセキュリティに関するeラーニングコースの開発・提供



オーブダ大学アルバ・レギア学部 (セーケシュフェールバール) で、学生たちは課題解決型のソフトスキルを学習。

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ **1,647**人がサイバーセキュリティ研修を受講
- ✓ プレゼンテーション、ワークショップ、啓発イベントを通じて追加の3,365人にリーチ
- ✓ **15,367**時間の学習機会の獲得



University of Technology Sydney (UTS) (オーストラリア)は、世界的な影響力を持つ主要な公立技術大学であり、産業界との強固な連携を活かし、テクノロジーとイノベーションの最前線を切り拓くことを目指しています。

課題	取り組み内容
地域の非営利団体におけるサイバーセキュリティ予算不足	政府助成による資金拡充
スキルとリソースの格差	・ プログラム開発における業界専門家との連携 ・ パートナー企業との連携による有償インターンシップ制度の導入



シドニー工科大学の工学・情報学部の学生たちが、サイバーレジリエンス・プログラムの立ち上げに参加。

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ **397**人がサイバーセキュリティ研修を受講
- ✓ **5,918**時間の学習機会を獲得
- ✓ **2027**年までに**1,412**人の受講を見込む
- ✓ **1,400**以上の公開講座を開設

特定非営利活動法人NPOサポートセンター（日本）は、非営利団体、政府、企業、財団などの主要なステークホルダーをつなぎ、社会課題の解決に取り組むことを目的とした団体です。

課題	取り組み内容
国内の非営利団体のITインフラと専門人材の不足	専門家のリスト化と教育システムツールの紹介によるサイバーセキュリティ関する実践的支援の提供
サイバーセキュリティに関するガイダンスについて特定のコースへの依存の偏り	事例・入門動画・NPO運営の課題に合う啓発コンテンツ教材による非営利団体内の情報セキュリティ知識向上およびITインフラの整備
国内の非営利団体に対するサイバーセキュリティ方針・規定の未整備	・ 専門家への相談体制の提供 ・ 専門家による、リスク認識・情報管理・デバイス管理に関する実践的セッション

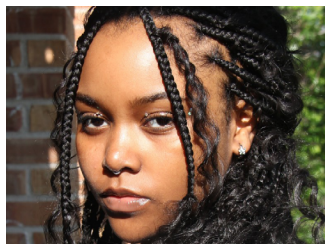


サイバーセキュリティの専門家による、非営利団体を支援するための効果的な戦略についての議論。

キンドリル財団プロジェクトのインパクト

- ✓ 166人が研修を受講
- ✓ 332時間の学習機会の獲得

インパクトストーリー



Arriyah (米国)

シカゴ在住の高校2年生。将来は法曹界を目指しています。Girl Securityの研修を通じて、現行の法律がAI時代のサイバーセキュリティ課題に十分対応できていないことに気づきました。翌年には次世代の研修生を支援するファシリテーターとして活動し、デジタルセキュリティに関するセッションを共同で運営。その後、Girl Securityのナショナル・フェローシップに参加し、15週間の人材育成プログラムを修了しました。春にはホワイトハウスで開催された国際会議に登壇し、グローバルな視点で女性と少女のサイバーセキュリティ参画について発信する機会を得ました。現在はイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校に全額奨学金で進学し、サイバーセキュリティと政治学の二重専攻を予定。将来は、テクノロジーと社会、そして政策の間にあるギャップを埋める役割を担いたいと語っています。



Jana (チェコ共和国)

4人の子どもを育てる母親。過去10年間は家庭を優先してきましたが、情報学の学位と7年間のエンジニア経験を持っています。双子の姉がCzechitasのサイバーセキュリティアカデミーで成功したことに刺激を受け、自身もプログラムに参加し、優秀な成績で修了しました。その後、セキュリティ・オペレーション・センター (SOC) にアナリストとして再就職。テクノロジーへの情熱は子どもたちにも影響を与え、1人はCzechitasのITサマーキャンプに参加しています。



Jagruti (インド)

農村地域出身の若い女性。家族の未来を変えたいという思いから、DSCIのCyber Vaahiniプログラムに参加しました。実践的なサイバーセキュリティスキルを身につけ、プログラム終了時には就職可能なレベルに到達。その後、支援チームのサポートを受けてAlvara社に就職しました。彼女にとって、それは単なる仕事ではなく、夢の始まりでもあったのです。



Yamada (日本)

高校中退後、リハビリ施設を退所し、社会との接点を見失っていた青年。育て上げネットのサイバーセキュリティプログラムを知り、学校で得たIT知識を活かすために参加しました。メンターやキンドリルのボランティアの支えを受けながら、個人的な困難を乗り越え、プログラムを修了。その後IT企業への就職を果たし、経済的自立と地域社会への貢献という新たな目的を手に入れました。

今後に向けて

2025年、キンドリル財団はサイバーセキュリティとAIスキルの育成をさらに加速させるため、11か国・12団体へ、2年目となる助成を拡大しました。私たちは、新たな地域への展開と、複数年にわたる支援先との関係の深化を通じて、地域社会へのインパクトをより一層強化していきたいと考えています。

詳細やご意見は、foundation@kyndryl.org までご連絡ください。

財団のサステナビリティや社会的インパクトに関する情報は、www.kyndryl.org にてご覧いただけます。





kyndryl foundation

© Copyright Kyndryl, Inc. 2025

Kyndrylは、米国およびその他の国においてKyndryl, Inc.の商標または登録商標です。その他の製品名およびサービス名は、Kyndryl, Inc.または他社の商標である場合があります。

本書の内容は初回発行日時点のものであり、Kyndrylによって予告なく変更される可能性があります。Kyndrylが展開するすべての国で、すべてのサービスが提供されているわけではありません。Kyndrylの製品およびサービスは、提供契約に基づく条件に従って保証されます。